

「平成19年度全国学力・学習状況調査」

津市の調査結果報告

津市教育委員会

目 次

I	調査の概要	2
1	調査の内容		
	(1) 調査の目的		
	(2) 調査の期日		
	(3) 調査参加人数		
	(4) 調査事項		
2	調査結果の活用についての基本的な考え方		
3	語句の説明		
II	教科に関する調査結果		
	<u>小学校</u>	3
1	国語 A		
2	国語 B		
3	算数 A		
4	算数 B		
	<u>中学校</u>	5
1	国語 A		
2	国語 B		
3	数学 A		
4	数学 B		

I 調査の概要

1 調査の内容

(1) 調査の目的

ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会・学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

(2) 調査の期日 平成 19 年 4 月 24 日 (火)

(3) 調査参加人数

ア 小学校第 6 学年児童 2, 5 0 7 人

イ 中学校第 3 学年生徒 2, 2 7 9 人

(4) 調査事項

ア 教科に関する調査

(国語 A、算数・数学 A)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心とした出題。

(国語 B、算数・数学 B)

- ・ 知識・技能等を実生活のさまざまな場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て実施し評価・改善する力などに係る内容(主として「活用」に関する問題)を中心とした出題。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査。

2 調査結果の活用についての基本的な考え方

(1) 本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校の教育活動の一側面であることを踏まえると共に、児童生徒・学校の序列化や過度の競争につながらないように十分配慮して取り扱う。

(2) 教育委員会・各学校は、調査の結果を分析し本年度調査を受けた児童生徒に対して、補充学習などを含めて、課題に応じてきめ細かく対応するとともに、教育活動の成果や課題等を把握・検証し改善を図る。

3 語句の説明

(1) 正答率・・・平均正答数を百分率で表したもの(単位%)

(各教科・領域の平均正答数を設問数で割った値の百分率)

(2) クロス集計・・・教科に関する調査の正答率と質問紙調査の各質問との関係を明らかにしたものです。

Ⅱ 教科に関する調査結果

小 学 校

1 国語A

国語Aの正答率は、全国平均とほぼ同じです。一定の学力を身に付けていると言えます。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、正答率が低く全国平均と比べてもやや下回る結果となっています。話の要点を聞き取ったり、効率よくメモをとったりする力が不十分です。
- (2) 「書くこと」については、正答率は高いものの全国平均と比べるとやや下回る結果となっています。目的や様式に応じて、必要な事柄を選んで文章を書き換えることはできています。
- (3) 「読むこと」については、正答率は全国平均とほぼ同じですが低い結果となっています。段落の内容をとらえることはできていましたが、一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えたり、物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読んだりする力が不十分です。
- (4) 「言語事項」については、高い正答率であり全国とほぼ同じ結果となっています。一部の漢字の書き取りなどに課題がありますが、全体的には良好な結果となっています。

2 国語B

国語Bの正答率は、全国平均と同じですが、国語Aと比較すると低くなっています。今後、活用の力を身に付けさせる指導方法の改善等が望まれます。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、正答率はほぼ全国平均と同じですが、意見や提案を聞き取りまとめる力が不十分です。
- (2) 「書くこと」については、正答率はやや全国平均を下回り、内容を読み取り要約して書いたり、いろいろな情報の中から必要な事柄を抜き出し書き換えたりする力が不十分です。
- (3) 「読むこと」については、正答率は全国平均とほぼ同じですが、他の領域と比べて低くなっています。文章の中から必要な事柄を読み取る力が不十分です。
- (4) 「言語事項」については、全国の正答率とほぼ同じです。

3 算数A

算数Aの正答率は、全国平均とほぼ同じですが比較的高い正答率であることから、一定の学力を身に付けていると言えます。

- (1) 「数と計算」については、全国平均とほぼ同じです。基本的な計算の力は十分ですが、四則や整数・小数の混合した計算では、正答率の低い傾向が見られます。
- (2) 「量と測定」については、高い正答率を得ていますが全国平均をやや下回っています。円の面積を求める公式を理解し面積を求める計算をする力が不十分です。
- (3) 「図形」については、高い正答率を得ていますが全国平均をやや下回っています。
- (4) 「数量関係」については、全国平均とほぼ同じですが、正答率は4つの領域の中で最も低い結果となっています。

4 算数B

算数Bの正答率は、全国平均をやや下回っています。算数Aに比べると、正答率がかなり低い傾向にあることから、知識・技能を活用する力に課題があると考えられます。今後、指導方法の工夫改善を図り、活用する力をさらにつけていく必要があります。

- (1) 「数と計算」については、正答率が全国平均をやや下回り、数値自体も低い結果となっています。工夫して計算する方法を説明したり、条件を整理して筋道を立てて考えたりする問題に課題が見られます。
- (2) 「量と測定」については、正答率が全国平均をやや下回り、4つの領域の中で最も低くなっています。特に、地図を観察して図形を見出し、必要な数値を選び出して面積を求める問題に課題が見られます。
- (3) 「図形」については、正答率が全国平均とほぼ同じで、4つの領域の中で、正答率が最も高くなっています。図形の性質を理解し、日常生活に見られる様々な形と関連付けて考える力が概ね身につけていると考えられます。
- (4) 「数量関係」については、正答率が全国平均をやや下回っています。棒グラフの読み取りでは、正答率は高い傾向になっていますが、百分率を用いて解決したり、根拠となる考えを説明したりする問題に課題が見られます。

中学校

1 国語A

国語Aの正答率は、全国平均とほぼ同じです。一定の学力を身に付けていると言えます。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、全国平均とほぼ同じであり、4つの領域の中では最も正答率が高くなっています。内容を要約したり、目的に沿って質問したりすることは十分な力がついています。
- (2) 「書くこと」については、4つの領域の中で最も正答率が低く、しかも全国平均をやや下回っています。特に手紙の後付についての理解などが不足しています。
- (3) 「読むこと」については、正答率は全国平均とほぼ同じですが、表現技法に注意して内容をとらえる力や、詩の韻律（リズム）についての理解が不足しています。
- (4) 「言語事項」については、正答率は全国平均をやや上回っています。語句を文脈の中で適切に使ったり、敬語の使い方を場に応じて使用したりすることがよくできていました。一方、文脈に即して漢字を正しく書くことが出来ていない一面も見られました。

2 国語B

国語Bの正答率は、全国平均とほぼ同じです。国語Aと比較した場合、少し下回っているため、今後は知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力を身に付けさせる指導方法の改善が求められます。

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、正答率は全国平均とほぼ同じです。
- (2) 「書くこと」についても、正答率は全国平均とほぼ同じですが低い数値でした。資料の中のものの見方や考え方をとらえ、考えを明確にして書く力が不十分です。
- (3) 「読むこと」については、ほぼ全国平均と同じですが、必要な情報を収集し表現に生かすことがよくできていた反面、文章や図表から共通する情報などを読み取る力が不十分です。
- (4) 「言語事項」については、全国平均とほぼ同じですが、「書くこと」同様に低い結果となっています。

3 数学A

数学Aの正答率は、全国平均をやや上回っています。一定の学力を身に付けていると言えます。

- (1) 「数と式」については、正答率は全国平均とほぼ同じでした。しかし、文字式の意味を読み取ったり、等式を変形したりする力が不十分です。
- (2) 「図形」については、正答率は全国平均をやや上回っています。中でも平行線が交わってできる角の性質を理解する力は十分に身に付いていると考えられます。しかし、円柱と円錐の体積の関係については理解が不十分です。
- (3) 「数量関係」については、正答率は3つの領域の中で最も低い数値ですが、全国平均とほぼ同じです。

4 数学B

数学Bの正答率は、全国平均と同じでしたが、数学の活用の学力については、特に根拠や特徴を説明する問題の正答率が低く、無回答率も多いなどの課題が見られます。

- (1) 「数と式」については、正答率は全国平均とほぼ同じではあるものの低い数値となっており、活用の力を身に付けさせるための指導方法の改善を図る必要があります。特に、問題解決の構想を立てて数学的な表現を用いて説明したり、物事を発展的に考えたりする力が不十分でした。
- (2) 「図形」については、正答率は全国平均を少し上回っています。
- (3) 「数量関係」については、正答率は全国平均とほぼ同じでしたが、一次関数の知識・技能を活用して数値を求めたり、問題解決の方法を数学的に説明したりする力が不十分です。

本調査結果の一部または全部を、複写・複製・改変することを禁じます。